



【取組内容】

- 開発途上国に安全安心な水や食料を届けるため、**農業高校の視点から環境・農業技術開発**を実施。
- 具体的には、**湖沼の水質浄化と食料生産を同時に行うシステム**、農薬の飛散を抑制し**環境汚染を抑制する泡農薬**、乾燥地・半乾燥地の開発途上国で発生している**雨季の土壌流出抑制と食料生産を促進する多機能集水システム**等を考案。また、**活動の後継者となる生徒の育成**にも努めており、現在1年生たちが新たな技術開発に取り組んでいる。
- 実用化後は、現地の**子供と女性の参画推進**や、安全安心な食料と水の確保による**健康の推進**、**環境汚染の抑制**、**持続可能な農林業の推進**等により、SDGsの幅広いゴールに貢献することを目指す。

SDGs実施指針における実施原則 (本アワード評価基準)

普遍性:	開発途上国の食料と環境問題の解決に貢献できるモデルとなる。国内の取組だが、世界の問題解決を目的に活動している。
包摂性:	すべての人に安全な食料と水を供給する技術であり、また気候の違う様々な地域の食料問題、環境問題に対応可能。
参画型:	開発途上国の食料と環境問題の解決に貢献するため、自分たちで発案しつつ、専門家や現地の人々の意見を取り入れている。
統合性:	食料・環境問題の改善が安定した経済・社会に繋がるとの考えのもと、開発途上国の総合的発展を目指している。
透明性と説明責任:	成果をホームページや文化祭や学会、イベントなどで広く公表。また、専門家の方々の意見を参考に活動を修正している。

